

緑化手法の違いと心理的効果の関係について

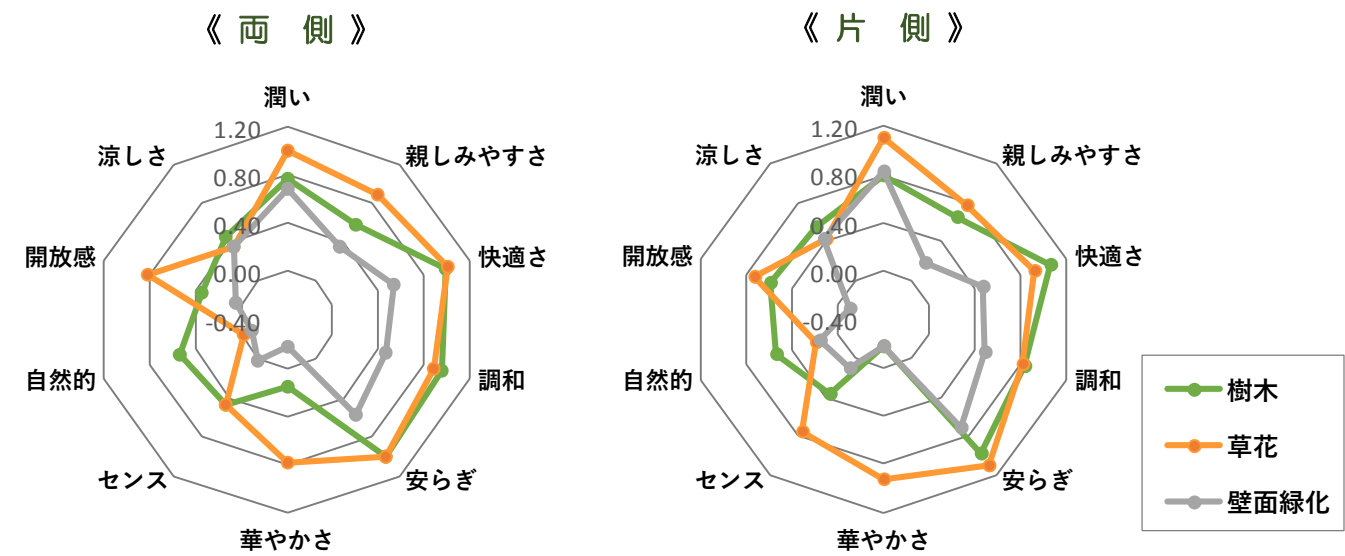
平成28年度 緑視率アンケート調査結果

《概要》

- ・樹木、草花、壁面緑化といった緑化手法の違いと心理的効果の相関関係を把握するためのアンケート調査を実施
- ・フォトモンタージュ加工により作成した、同程度の緑視率で、緑の質が異なる画像を提示し、「華やかさ」や「快適さ」等について質問
- ・道路の両側、片側の2パターンで画像を作成
- ・久屋大通公園の来訪者100名を対象に実施（平成28年11月）

【属性】 男女比 男性53%、女性47% 住所 名古屋市内72%、県内14%、県外14%
年代 10代:4%、20代:18%、30代:24%、40代:19%、50代:15%、60代以上:20%

●調査結果



※アンケート調査における5段階評価（-2、-1、0、1、2）の平均値を示す

道路の両側、片側のいずれについてもほぼ同様の傾向となり、緑化手法の違いと心理的効果の関係について以下の結果が得られた。

●樹木による緑化

都市において自然的なイメージを与え、快適さや安らぎ、風景との調和を高める

●草花による緑化

華やかさやセンス、開放感や親しみやすさ等を高め、潤いを与えるなど緑に対する満足度を効果的に高めることができる

●壁面緑化による緑化

涼しさや潤いを与える効果があるが、緑に対する満足度を高めるためには、華やかさを加えるほか、圧迫感を抑えるための適切な管理が必要となる

●緑視率アンケート調査に用いた画像

両側

樹木（緑視率 19.8%）



草花（緑視率 19.7%）



壁面緑化（緑視率 20.0%）



片側

樹木（緑視率 16.2%）



草花（緑視率 16.7%）



壁面緑化（緑視率 17.5%）

